



スペインのサグラダ・ファミリア教会で有名なバルセロナの街は昔からの建造物がかした都市で、建物はほとんどが19世紀以前のもので、市街地は緑化がほとんど行われていない。バルセロナ市は、この現状を改善するために、市街地の緑化を推進している。その中でも、目を付けたのが「交通機関の屋根」だ。電車・バス・商用車などの屋根の上に緑化を施すというアイデアだ。

これにより、市内の温度が下がると見込まれる。また、雨水の貯留や、太陽光の遮断による省エネ効果も期待されている。バルセロナ市は、この取り組みをさらに推進していくとしている。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で対応させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

小林勇紀（東京支店）は、環境問題に関心があるという。大学時代に自然保護の活動に参加し、環境意識を高めることに貢献した。現在は、大日化成株式会社に勤務し、環境対策の推進に努めている。また、趣味として読書や音楽鑑賞を楽しむという。



東京支店 小林勇紀

小林勇紀は、環境問題に関心があるという。大学時代に自然保護の活動に参加し、環境意識を高めることに貢献した。現在は、大日化成株式会社に勤務し、環境対策の推進に努めている。また、趣味として読書や音楽鑑賞を楽しむという。

**DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.**

- 本社 大阪府門真市末広町 8-13 TEL: 06-6909-6755(代) / FAX: 06-6909-6702
- 東京支店 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F TEL: 03-3436-3801(代) / FAX: 03-3436-3803

次号も お楽しみに

URL: <http://www.dainichikasei.co.jp>

映画で学ぶ 環境問題



ジオストーム  
原題: Geostorm  
監督: ディーン・デヴリン  
製作: デヴィッド・エリソン  
ディーン・デヴリン  
ダナ・ゴールドバーグ  
出演者: ジェラルド・バトラー  
ジム・スタージェス  
アビー・コーニッシュ  
上映: 109分  
制作国: アメリカ合衆国  
配給: ワーナー・ブラザーズ  
公開: 2017年(米国)

日本でも昨年公開された近未来パニック映画の「ジオストーム」。「海も凍り、飛行機も凍り、彼氏も凍る」のテレビCMは、インパクトがありました。

ストーリーは、『ひどくなるばかりの異常気象対策として、世界各国が総力を結集し完成させた「気象コントロール人工衛星」その総指揮をとった主人公ジョエイクは、救世主の名前から一転政治的な権力闘争によりクビになってしまいます。後任の弟に手柄を横取りされ、捨てパチな気持ちで引退するジョエイクですが、やがて発生した殺人的な異常気象に疑問を抱き、ひとりで宇宙に戻ります。

調べてみると、機器異常や故障ではなく、誰かのしわざで「気象兵器」を「気象兵器」に転化された模様。しかも、思いもよらない人物が首謀者！そこで敵対していた弟と手を組み、事態収拾をはかるジョエイクですが、暴走する衛星を手動で再起動させるために、たった一人で宇宙に残ります。さて結末や、いかにジョエイクは地球に戻って来られるのでしょうか？

一見スリリングな内容ですが、早くからネタバレする「意外な犯人」に予想通りのラストなど、アメリカ映画にありがちなパターン。特に、凄腕エンジニアであり、科学者としての知性があるはずの主人公を、肉体派で複雑なイメージのジェラルド

バトラーが。その弟で、政治的野心にあふれ出世の官僚を、線が細く頼りないイメージのジム・スタージェスが演じる配役も、ミスキャストと言わざるを得ません。

にも関わらず、このコーナーで取り上げたのは、「気象兵器」という言葉の重みが、わずか数年前は違ったものになったからです。実際に、今年日本を通過した台風の異様な多さや、西日本豪雨を中心とした災害被害のひどさから、気象戦争が始まったと噂する人が後を絶たないのです。

特に台風12号は、通例とは逆の東から西への進路だったうえ、九州ではグルッと一回転したため、気象兵器のしわざと直後から噂されました。まあ、何でもすぐに「陰謀論」が出てくる昨今ですが、12号の場合は「前例の無い進路」との注意報が何度も出されたため、話題が集中したのでしょう。また、その後の21号や24号が主要都市を直撃したうえ、もたらした被害があまりに大きかったことや、西日本豪雨や北海道地震、大阪北部地震の被災地を再破するような台風が、いくつもあったことなどあり、陰謀論はいまだにやむことがありません。ネット検索すれば「証拠画像」が次々に出てくるほどです。

そして、あまり知られていないことですが、気象兵器については既に、1976年に国連総会で気象兵器禁止条約である「環境気象兵器禁止条約」が採択されており、2013年時点でも世界百二十一方国が批准していると

器はかなり以前から存在しており、その使用を防ぐために各国が真剣に討議してきたという事です。「気象兵器はベトナム戦争時から使用されてきた」と発表する理論物理学者さえいます。

ですから、気象兵器そのものは決して絵空事ではなく、現実社会の問題であり、禁止条約があるという事は、それを破って使おうとする勢力も、存在するかもしれないということ。

確かに今年の台風の数や内容は「異常レベル」とも言えましたが、その影響で、関西では国際空港がストップしたり、関東圏では電車や電力網が塩害でやられたほか、10月中旬に桜が咲き11月にセミが鳴くなど、これまでになかったことが続いているのですから、陰謀論が出てくるのも致し方ないのかも知れません。

そういったことを考えながら再度、鑑賞してみたいところ、単なるパニック映画と違って新たな魅力も見えてきます。それは、実際に起こった様々な異常気象の映像を織り込んでいるという事。これらの映像は、作り物のCGとは違い、緊迫感が半端ありません！そしてCG映像でさえも、大きな氷塊が東京を襲ったシーンは、今夏の関東東の同様な事に重なってみえてきます。とはいえ、恐ろしい映像ではありませんので、ファミリー映画としてもぜひ、ご覧頂きたい思います。